

## オオゾウムシ

針葉樹や広葉樹の丸太や伐根に穿孔するイモムシ（幼虫）。体長最大27mm。脚はない。尾端に3対の柔らかな突起がある。木の表面に直径最大10mmほどの丸い穴が開き、木くずがでる。辺材部を主に穿孔し、丸太の材質を劣化させる。穴の壁面は変色しない。

ごく普通種。土場の丸太に多発することがある。



1. 孔道。2001/4/11.



2. 幼虫。2000/10.



3. カラマツ丸太上の成虫。1984/5. 鶴川町.

【学名】 *Sipalinus gigas*

【分類】 コウチュウ目 (Coleoptera) , オサゾウムシ科 (Rhynchophoridae)

【分布】 北海道, 本州, 四国, 九州, 沖縄; 朝鮮半島, 中国, 台湾, 東南アジア.

【特徴】

成虫は体長14~25mmの大形のゾウムシ。幼虫は尾端背面の突起により容易に識別できる。

【生態】

湿り気味の樹皮付き丸太や伐根に寄生する。トドマツ, エゾマツ, カラマツ, アカマツ, スギ, ヒノキ, ナラ, カシ, ブナ, クリ, ニレ, サクラなどにつく。

本州での生活環は次のように報告されている。成虫は春から秋までみられる。春に現れる成虫は越冬したもので、伐倒丸太, 伐

根、衰弱木の樹皮中に産卵する。孵化した幼虫は材部に食入り、主に辺材部を食害する。この時、外に木屑を排出するので、被害を認めることができる。幼虫で越冬し、春に蛹になる。夏に羽化して成虫となり、外にでる。以上のように卵から2年かかって成虫になり、材内にいる期間は春の卵のときから翌年の夏までのほぼ1年におよぶ。

成虫はニレなどの樹液やビールに集まるといわれている。

#### 【被害】

湿り気味の丸太や伐根を好み、皮付き丸太を積んでおくと、内側にあるものが被害を受けやすいといわれている。乾燥した材や剥皮した材は加害しない。

#### 【防除】

予防としては、丸太を土場に置く期間はできる限り短くし、長くても1年を越えないことが重要である。また、被害木を製材した際にでる端材に幼虫が残っている可能性があるため、端材も放置せず早めに焼却などして処理する。

他の予防方法として、(1)丸太を樹皮を剥がしてから土場に持ち込む、(2)丸太の通風、日当たりを良くするなどが古くから言われているが、このような方法では製材機器の破損や材質の劣化(割れ)を引き起こす可能性があるため検討を要する。

駆除方法として、被害木を3週間以上水中に浸漬する方法があるが、実行可能な場所は限られる。ビールに対する誘因効果が報告されているが、駆除効果は試験されていない。

なお、製品に被害材が混じらないよう検査を行うことも重要である。

#### 【文献】

1943. 松下眞幸. 森林害虫学. 410 pp. 富山房, 東京. (生態)

1953. 井上元則. 林業害虫防除論, 中巻. 293 pp. 地球出版, 東京.

1990. 野平照雄, 小川知. ベイトトラップに集ったゾウムシ類—松林での場合—. 第38回日本林学会中部支部論文集: 165-

166. (ビールの誘因効果)

北海道立林業試験場・緑化樹センター

オオゾウムシ [zoumushi/oozoumu/kaisetu.htm](http://zoumushi/oozoumu/kaisetu.htm)

「文章」原秀穂, 北海道立林業試験場, 2001/4/16.

koudou.JPG

「写真1」林直孝, 北海道立林業試験場, 2001.

yochu.JPG

「写真2」原秀穂, 北海道立林業試験場, 2001.

seichu.JPG

「写真3」鈴木重孝, 北海道立林業試験場, 1984.

「協力」

日浦祐子, 胆振東部地区林業指導事務所, 2001.